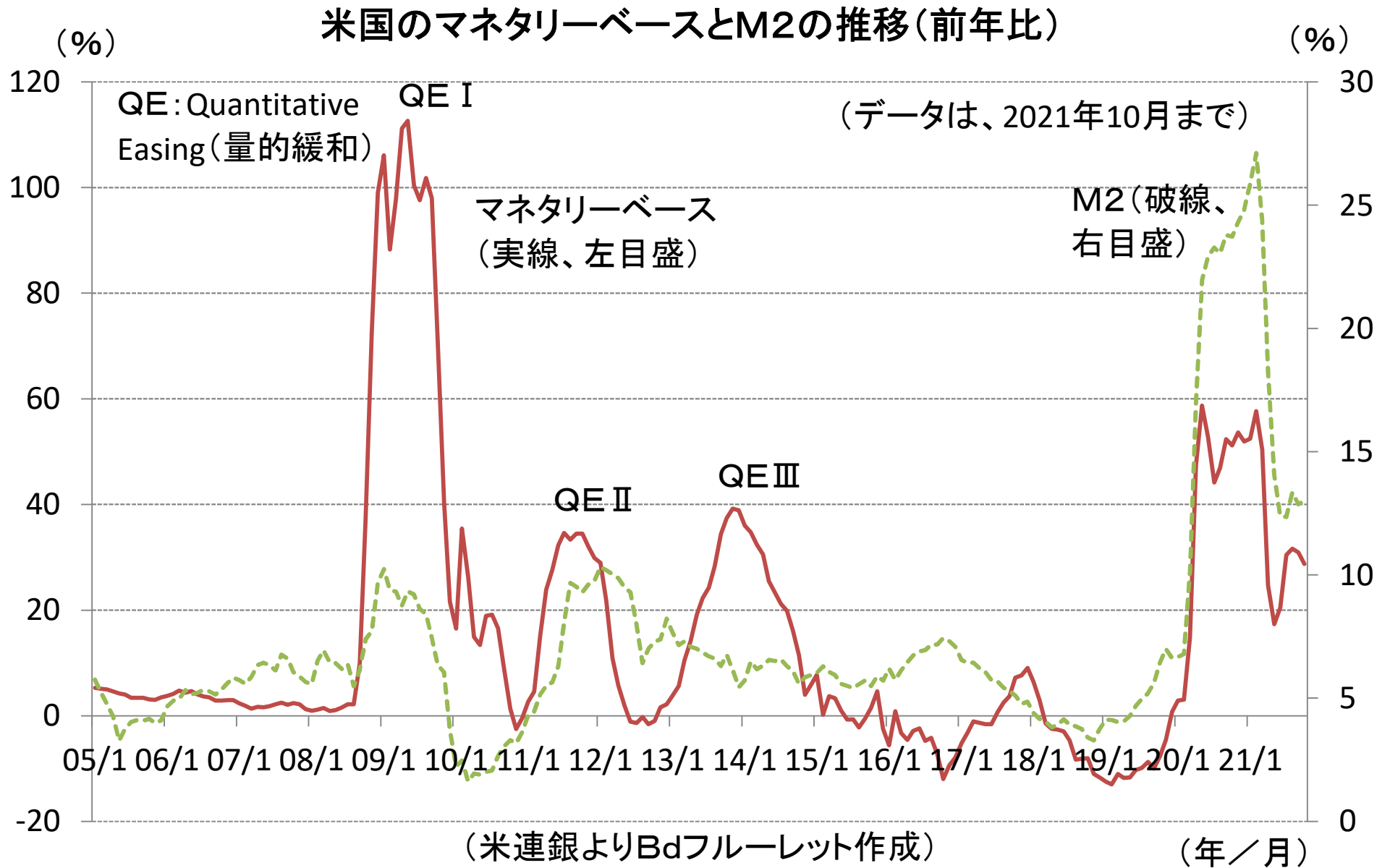


# 2022年の「熊たち」(2021/11/17「キヤスターの視点」)

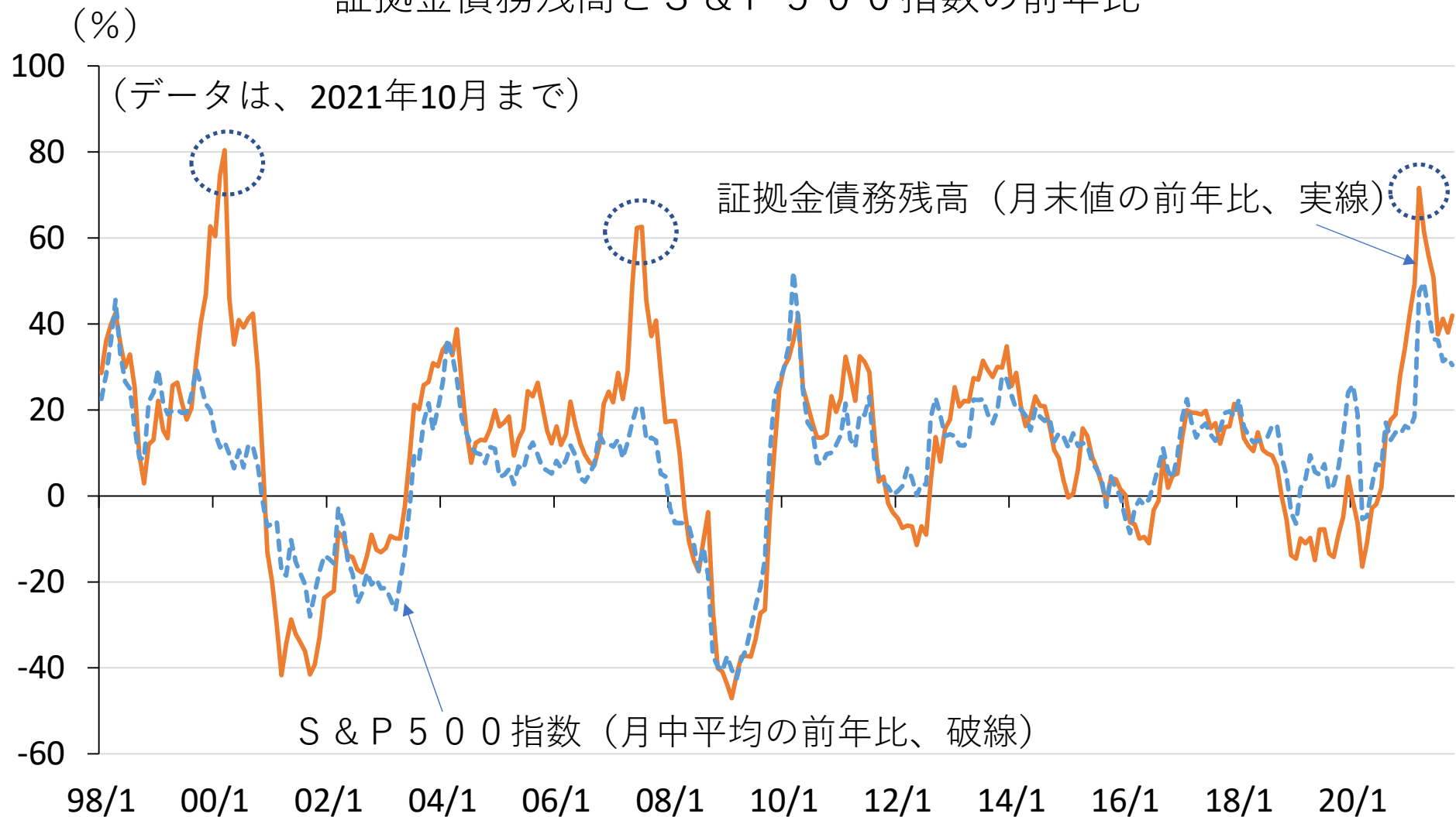
- 米国におけるテーパリングの進展: 大幅な金融緩和を前提とした行動の逆回転
  - 1) 投資家の信用買いや社債購入にブレーキ
  - 2) 企業の資金繰りを圧迫して自社株買いが減退、最悪の場合は資金繰り破綻と社債価格下落の悪循環
- 「中国リスク」: 中国景気の減速リスクに加え、突然の産業規制リスク、米中関係の安全保障や人権問題を巡る対立が経済や金融に影を落とすリスク、民間部門の巨額の債務リスク
- 日米欧等主要国の経済と企業収益の伸び鈍化: 当面成長は続こうが、勢いに陰りが
- 米クリスマス商戦の後半戦が息切れか: 輸送業などの人手不足が影を落とす
- EUの求心力に疑念: ポーランド、ハンガリーとEUとが対立、4月のフランス大統領選でマクロン大統領が敗れると...

# 米国のマネーの状況を数値できちんと把握すると...



# 米国株は信用買いで押し上げられてきた

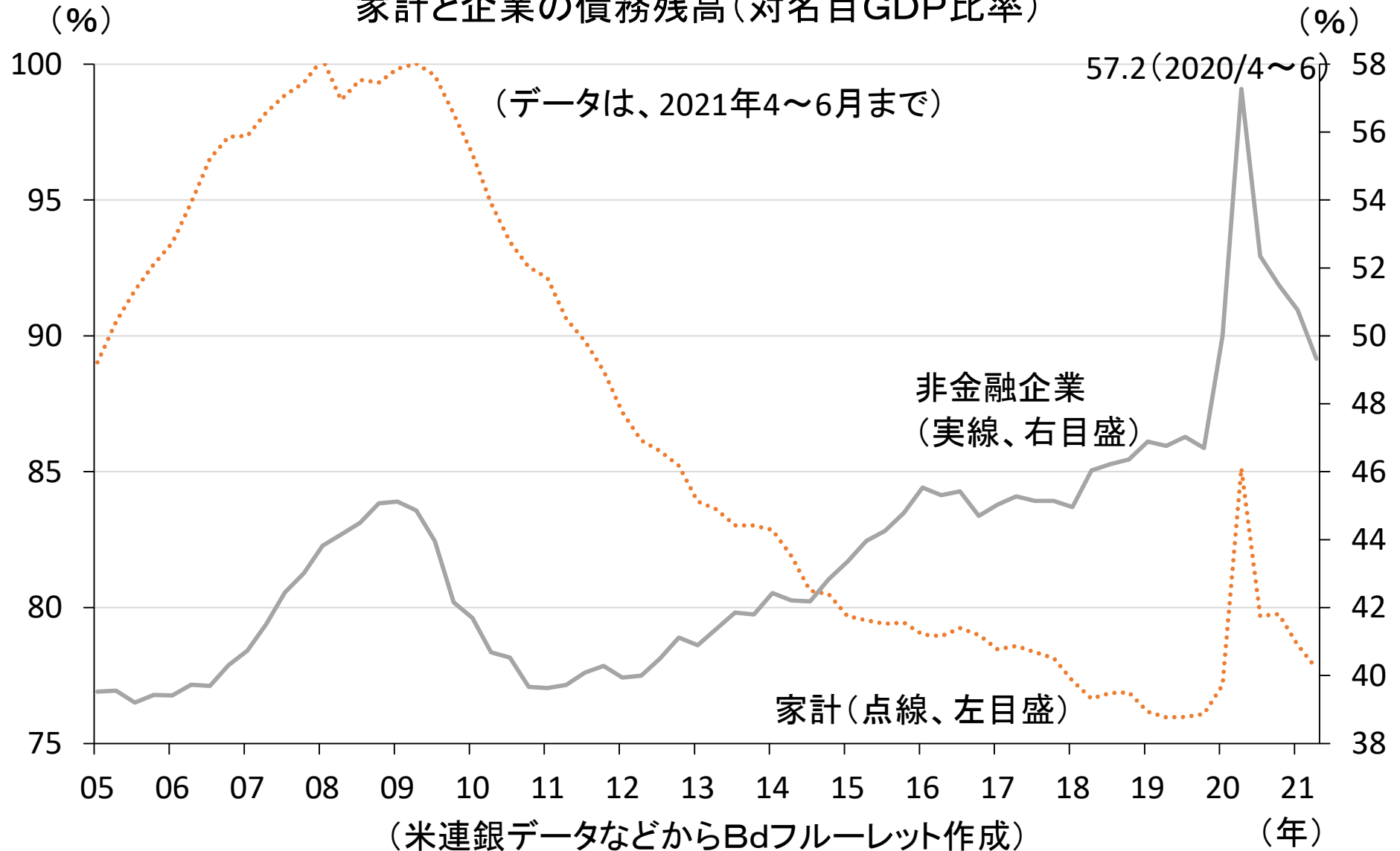
証拠金債務残高と S & P 5 0 0 指数の前年比



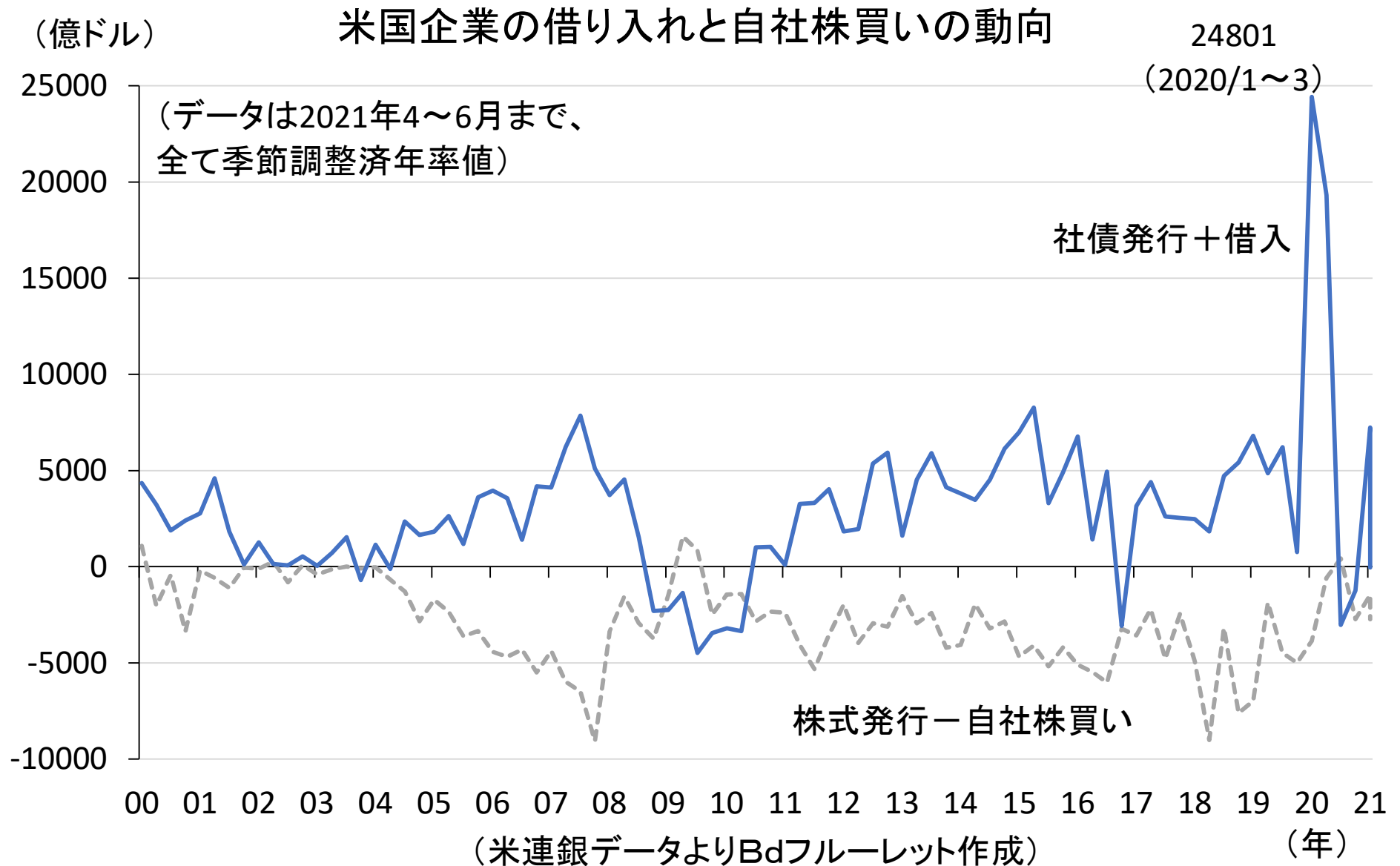
(The Financial Industry Regulatory より B d フルーレット作成)

# 企業の負債残高が膨張

## 家計と企業の債務残高(対名目GDP比率)

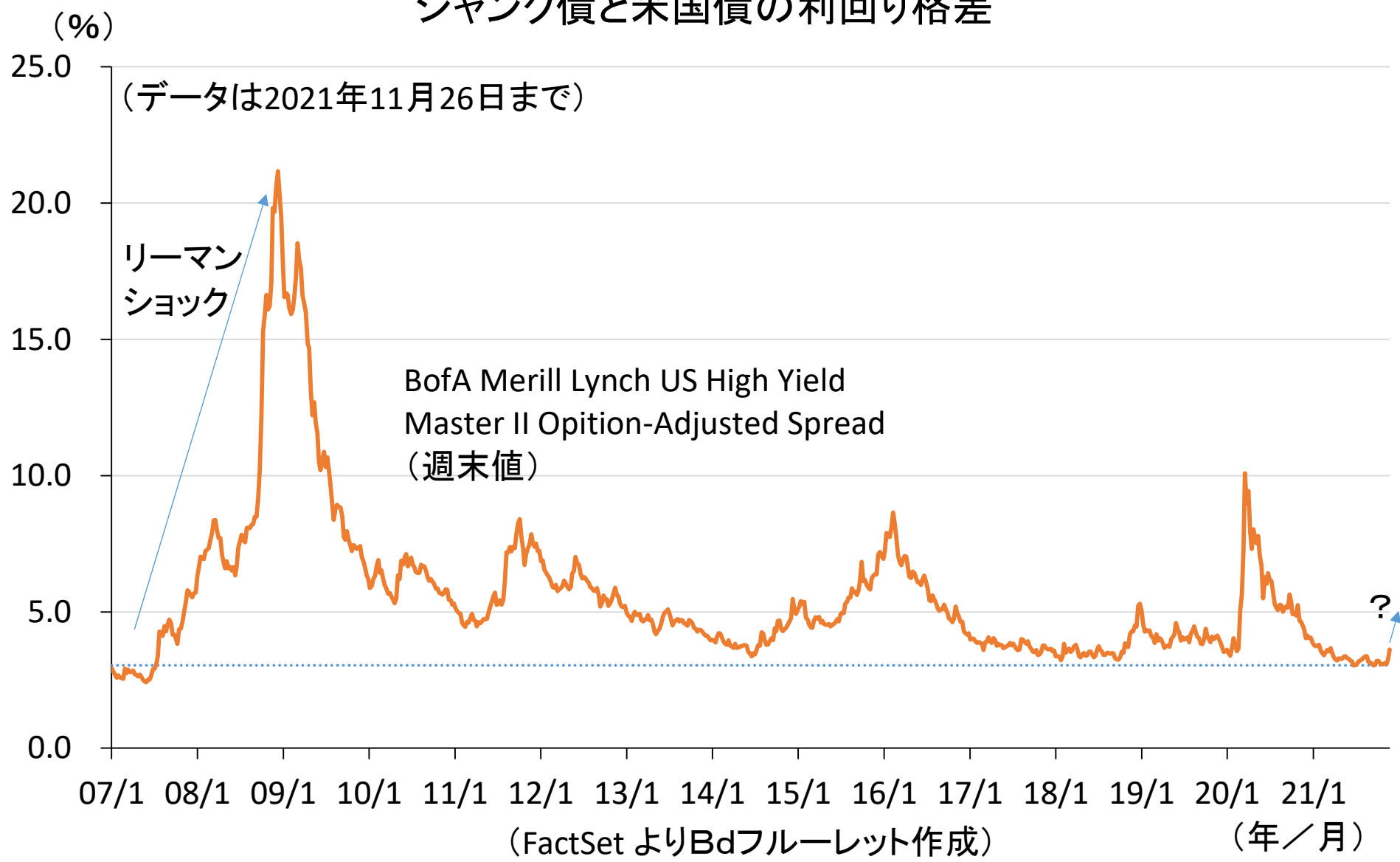


# 企業は借入金を自社株買いに充ててきた



# ジャンク債への投資家の買いは持続可能？

## ジャンク債と米国債の利回り格差



# 買われ過ぎてきたのはジャンク債だけではない

## BBB格債と米国債の利回り格差

